

いずみニュースレター

令和4年10月発行 第23号

ウィンブルドン大会と英仏美術館

社会福祉法人いずみ評議員 森田 義雄

未だ終息の見えない新型コロナウイルスではありますが、早くコロナ以前の社会生活にもどれることを願って止みません。

さて現在、米国ニューヨークで全米オープンテニスが開催されています。皆さんがこれをお読みになるころには、決勝終了、チャンピオンが決定していることと思います。私事ですが、社会人になってから硬式テニスを始め約40数年、年が経ちました。健康に過ごすため、生涯スポーツ多々ある中で、テニスを始めました。経験を積むに従い、市民大会、スポーツクラブ主催の大会等にエントリーし、たくさんの一回戦負けや、低レベルの大会ではありましたが上位入賞等の経験をさせてもらい、今は適度に楽しむテニスで健康維持を図っています。

プロのテニス大会はポイント取得ランク別で年間開催されていますが、4大大会（豪1月、英7月、仏5月、米8月）は特別と言えます。特に英国ウィンブルドンはロンドン郊外ウィンブルドン公園に隣接し、芝のセンターコートは年一回この大会のみ使用、天然芝の緑とコートの白線がとても映えていました。テニスを始めた頃から、プロ選手参加の国内大会には多々行きましたが、海外大会など観戦できるはずないと思っていたところ、運よくウィンブルドン観戦ツアーの機会に恵まれ、2017年7月にウィンブルドン大会を含めた英仏美術館の旅が実現しました。試合では、錦織圭選手をはじめ、大阪なおみ選手他日本人のプレー観戦、本場ならではの雰囲気を感じ、テニスをしている者として一生の思い出になりました。また車椅子テニス選手の試合もありましたが、日程の都合上観戦には至りませんでした。観戦者には障がいをお持ちの方々もおり、施設内の配慮も充分といえるものでした。

数日間の観戦を後に、次に美術館巡りでした。ヨーロッパ各国にはたくさんの名だたる美術館がありますが、限られた二国、英国ではショナルギャラリーで、ゴッホの「ひまわり」、フェルメール「ヴァージナルの前に立つ若い女」、ダヴィンチ「岩窟の聖母」他を鑑賞、次は仏国へ、あの有名なルーブル博物館、全て観るには約1ヶ月位と言われる中、絶対に見逃せない作品である、「モナ・リザ」の他「ミロのヴィーナス」、「サモトラケのニケ」、「民衆を導く自由の女神」、「カナの婚礼」、「ナポレオン1世の戴冠」他、多くの絵画鑑賞したこと、まさに本物を目にしことは深く感銘したところです。

最後に、身体が丈夫であれば運動や旅行、趣味を生かした好きなことが出来ます。私も足腰が立つまではテニスを続けていこうと考えています。皆さんも身体のケアを怠らず、好きなことが出来るようお過ごしいただきたいと思います。

あゆみの家成人部 避難訓練 バス火災時対応

今回は初めての試みという事もあり何から行うか、どのような訓練をするのか手探りでの訓練となりました。役割としてはドライバー、添乗者、利用者、通行人と、できる限りの想定で火災によりリフトが故障。リフトが、自動では使用できないという状況での訓練としました。非常時のリフト降下方法、出火時の消火方法、人力での避難と移動、人員の確保など問題点が続々と上がるなか、職員どうして声かけをしながら訓練を進めました。最後に振り返りを行ない、今後の避難方法、必要物品の確認を行ないました。災害が起こるかもしれないという想定で、今後もいろいろな場面で考え続けていきたいです。

担当：藤田



ひまわり（児童発達支援）避難訓練の様子

ひまわりでは2ヶ月に1回を目安に避難訓練を行っています。地震や火災、発生時間、職員配置等、毎回想定を変え職員で声をかけ合います。

訓練の後は、反省会を必ず行います。リーダーの動き、防災グッズの場所、バギーの使用、持ち物確認等、毎回色々な意見、反省等があり、その都度検討を重ねています。

9月には保護者協力の元、伝言ダイヤル体験を行いました。伝言ダイヤルは数年前から年に一度の目安で行っています。伝言ダイヤルを知らない、使った事がない保護者、職員もいる中、大切な体験となっています。

一人一人の大切な子供の命を預かっている事をいつも忘れず、どんな時でも、迅速、安全に対応していけるようにしていきます。

担当：西島



①避難ベルを
鳴らします。



③避難する為
バギーに乗りま



④安全に
避難開



⑤避難場所で点呼、
反省会です。

ひまわり（放デイ） 地震想定での避難訓練（発電機について）

第一の揺れが収まった所でヘルメット、防災頭巾での頭部の保護を行いながら、避難の準備までを行いました。

その後、停電を想定し発電機を使用した電力確保の訓練を行いました。ひまわりには日常的に吸引が必要な医療的ケア児が通所されているため吸引機の充電が無くなった場合は発電機で電源を確保する事が命を守ることに繋がります。発電機を動かしたことのない職員に発電機の保管場所と操作方法を見てもらい、実際に発電を行いました。発電機が施設の外にある為、延長ドラムコードを使用し、2階まで電源を引いて実際に吸引機の動作確認を行いました。

実際に発電機を使用して、わかったことや改善しなければいけない点などが明確化してきたので、今後も繰り返し訓練に取り入れ、緊急時に備えていきます。

担当：廣瀬



ライフサポートつばさの消防隊について

ライフサポートつばさの消防隊についてお話しします。自衛消防訓練には①消火訓練 ②通報訓練 ③避難訓練 の3種類が含まれますが、災害が発生した際に誰が何をするのかパニックに陥らないようにするために、役割を分担して訓練を行なっています。この分担表が消防隊編成表です。つばさの消防隊は①隊長 ②地区責任者 ③通報連絡 ④初期消火 ⑤安全防護 ⑥避難誘導 ⑦応急救護 の7つにそれぞれ担当を2名～全員と割り振って作られています。例えば①の隊長は、全館放送で情報の発信や各消防隊員からの報告を集約し、最終的に消防署職員へ情報提供をするといった内容です。このように訓練の中で役割の経験を重ね、いざという時に対処できるよう備えています。

担当：増田（つばさ安全等整備マネージャー）



あゆみの家 幼児部での防災訓練

あゆみの家幼児部の防災関連の訓練は、普段、ライフサポートつばさと合同で実施しています。富士見拠点の建物全体で実施となるので緊迫感があります。

8月の訓練は幼児部のみで実施しました。当日は9月の防災の日に近いこともあり、地震想定で実施。活動の合間に地震が発生し、揺れが収まった後、非常口まで移動するという避難訓練でした。園児たちにとっては、訓練とはいえ突然普段とは違うことが起こるので、驚いて泣き出してしまうこともあります。それでも、保育者といっしょに移動して人数点呼が終わるまで、ほとんどの園児が泣かずに参加していました。特に年長児は、神妙な面持ちながらも騒がずに参加していました。終わってから「今日の地震、おしまい」と伝えると、「地震おしまいだね」と自分に言い聞かせている子もいました。こういった時に成長を感じます。

災害はいつ起こるかわかりません。普段からの備えが大事ということは、2011年3月の東日本大震災の時に実感しました。当時は偶然にも1、2月と地震を想定した防災訓練を行っていたため、大きな揺れに衝撃を感じましたが、比較的落ち着いて対処できたと記憶しています。普段からしっかりと備えられるよう、積み重ねの大切さを訓練を通じて強く感じました。

担当：田中



ホームヘルプひだまり 災害伝言ダイヤル「171」体験

9月1日は「防災の日」です。ホームヘルプひだまりでは、9月1日と9月15日の2日間に分けて、利用者・家族に災害伝言ダイヤル「171」を体験して頂く訓練を行いました。

<実施内容>

災害の想定：夜中に震度6の地震発生。

家族の安否を「171」を使って事務所へ連絡する。伝言の録音と再生を行う。

事前のアンケートでは、「171」を知らない、又は知っているが使ったことがない、という回答が2/3でした。実際に使ってみていかがでしたでしょうか？ 私たちホームヘルプひだまりは、居宅介護や外出支援ですので、災害に遭った時、安否を家族に連絡しなければなりません。また外出先の場合は、電車やバス・徒歩で帰宅しなければなりません。又は外出先周辺の避難場所に避難する場合もあるでしょう。臨機応変な対応が求められます。災害が起きるかもしれない→その時どんな対応をする？ シミュレーションをしておくといざという時に適切な行動が出来ると思います。

覚え方「171」＝「いない」 安否確認ツールの一つとして覚えて頂けたら嬉しいです。

その他：ひだまり職員会議では、消火器の使い方について学びました。

①ピンを抜く②ホースを火元にむける③レバーをにぎる。

覚え方「ピン・ポン・パン」です。

消火器による消火の限界の目安は炎が天井に達するまで。逃げ道をしっかり確認して消火！

担当：松本こずえ

BCPについて

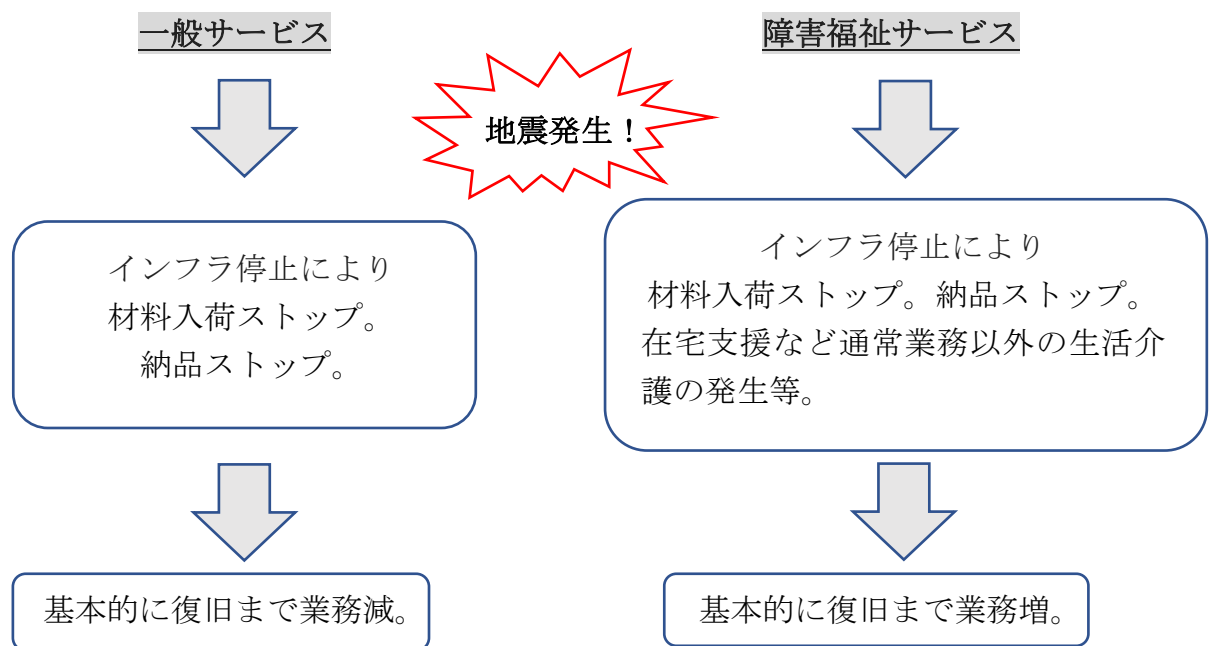
BCPとは、「Business Continuity Plan（事業継続計画）」の頭文字を取った言葉で、**緊急事態の際に企業が損害を最小限に抑えつつ、中核業務を継続あるいは早期復旧するための計画**を指します。障害福祉サービスは障害者、その家族等の生活を支える上で欠かせないものであり、昨今大規模な災害の発生がみられる中、施設・事業所等において災害発生時に適切な対応を行いその後も利用者に必要なサービスを継続的に提供できる体制を構築することが重要です。

こうした観点から、令和3年度障害福祉サービス等報酬改定において、全ての障害福祉サービス等事業者を対象に、運営基準において業務継続に向けた計画等の策定や研修の実施、訓練の実施等を義務付けることとされました。

なお、3年間の経過措置（準備期間）を設けており、令和6年度から義務化されます。いずみでは今、土台が完成し、内容を精査しながら運用開始に向け準備中です。

BCPは主に①感染症BCP ②自然災害BCP の2種類がありますが、どちらの場合でも障害福祉サービスはその業務量が増加すると考えられています。

例)



そのような緊急事態の中でもBCPがあれば、適切な対処・対応が行え、混乱の中でも最小限の人員で運営をしながら復旧ができるものと考えられます。

障害福祉サービスは警察や消防など同様の社会インフラだと思います。いずみでも生活介護、児童発達支援、放課後等デイサービスや居宅介護事業など法人が携わっている事業は多岐に渡りますが、なによりも利用者・ご家族の生命を守るために、緊急時でも必要なサービスを提供できるBCPを作成してまいります。

担当：増田（BCP作成委員会）

「東村山市私たちのSDGs パートナー認定」

社会福祉法人いずみは「東村山市私たちのSDGs パートナー認定」を取得しました。

私たちいずみが目標達成のために取り組んでいくのは、

「3、すべての人に健康と福祉を」「11、住み続けられるまちづくりを」の二項目です。

いずみは幼児期から成人に至るまでライフステージに応じた支援の提供しています。その他、地域の方に向けてホールの貸出を行い、文化活動や学習の機会の場を提供したり、地域の方も参加できる研修会や夏祭り等の行事を開催し、地域間交流の推進を図っています。

そして、令和5年にはグループホームを開所し、地域生活の基盤となれるよう職員一丸となって取り組みます。これらの目標を達成できるように、また達成後も更なる目標に向かって邁進していきます。

「東村山市わたしたちのSDGs パートナー」については市ホームページをご参照ください。

担当：会田



○障害を持つ方が地域で暮らすグループホームを令和5年10月設立。利用者が住み慣れた環境で安心して暮らせる生活基盤を提供する。

○地域の障害を持つ方へ、幼児期～成人に至るまでライフステージに応じて日中支援と在宅支援、相談支援を提供している。

○地域の方に向けてホールの貸出を通じて文化活動や学習機会の場の提供をしている。

○地域の方も参加できる研修会や夏祭り、音楽イベント等の行事を開催し、地域間交流と文化的活動の推進を図っている。



パンのご寄付をいただきました ～毎年恒例 パン食い競争～



あゆみの家幼児部では、毎年の運動会で「親子でのパン食い競争」が恒例の競技になっています。この2年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、大人数が集まることを避けるため1週間かけて1日ひとつの競技を実施する『運動会ウィーク』という形で運動会を行っています。今年は9月20、21、23日の3日間で実施し、最終日の23日は祝日開所に合せて父親療育参加デーとして、親子で楽しめる競技を楽しんだ後に「パン食い競争」を行いました。親子でパンを取った後、大事そうに腕に抱えて待つ子、嬉しそうに笑顔で待つ子、お子さんたちの表情は様々でしたが、皆さんとても楽しそうでした。

今年も山崎製パン株式会社武蔵野工場様より、たくさんのパンのご寄付をいただき実施することができました。地域の中で長年に渡りご厚意を頂いています。持ち帰ったパンは、各家庭で「美味しくいただきました」とたくさんの喜びの声が届いており、今年も無事にひとつの恒例行事を終え、感謝

の気持ちでいっぱいです。他、株式会社ガイア様より、お菓子の詰め合わせを頂いております。ありがとうございました。

担当：田中

職員ひとこと

今号は、勤続年数の幅も広くご紹介いたします。



あゆみの家成部

豊野 大 7年目

私が大切にしていることは真摯に利用者支援に当たる事です。

同じ視線で皆様に寄り添った支援ができるように、声掛けする際は、一つ腰を下ろしています。目線を合わせお話を伺う様に心掛けています。今後もよろしくお願いいたします。



コロナ禍で外にお出かけが出来ない中「何が今できるか！」を日々考えながら、活動を行っています。

外に行けない分、中で食べられる物、「たこ焼き」、「クレープ」、「かき氷」、「ベビーカステラ」、「フルーチェ」、「シャリーチェ」、「ブドウ狩り」、「イチゴ狩り」季節に合った物を選び楽しんでいただいています。

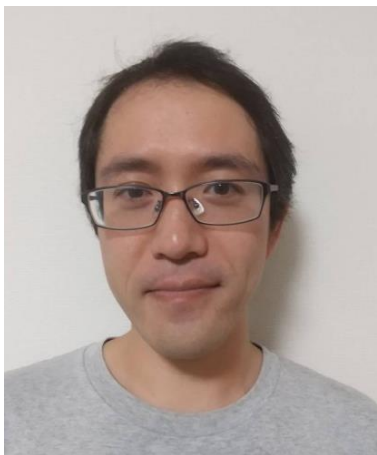
また、「笑い」をテーマに皆で一緒にできるゲームを中心にレクリエーション活動を行っています。



あゆみの家成部

宇佐美 譲 2年目





ひまわり (児発・放デイ)
小山 大志 18年目

ひまわりの管理者の小山です。放課後等デイサービスに入職してから18年になります。

私はひまわりの子ども達と一緒に笑い合い、楽しい気持ちを共有する事を大切にしています。『あなたと一緒にいると私も楽しいよ』そんな気持ちが伝わることで、子ども達自身が“自分はかけがえのない存在”という事を認識し、自己肯定感を育む一つの材料になれば良いなと思っています。

少し偉そうな事を書きましたが、単純に子ども達と一緒に過ごせる時間が大好きなので、子ども達だけでなく、ひまわりを支えてくれている保護者、職員、法人にも感謝をしながら働かせてもらっています。



私が「大切にしている事」は、仕事もプライベートも「自分が一番楽しむ」という事です。

しかし、自分だけが良い状態だけでは楽しい時間を過ごす事はできません。コミュニケーションをとりながら、居心地の良い空間を自ら作り出すことで、自分はもちろん周りも一緒に、楽しめる事に繋がると感じます。これからも、利用者の皆様と仲間（職員）と共に、楽しい時間を作り出し、楽しみたいと思います。



ライフサポートつばさ
梅崎 綾子 4年目



ライフサポートつばさ
大木 啓至 4年目

私が支援させて頂いている中で、特に気を付けている事は『違和感を放置しない事』です。ほんの些細な事でも、重大な事案に繋がる事があります。具体的には、利用者様の表情や態度、周囲の環境等『何かが違う』を察知し解決していく。そして、つばさの安心で安全な生活に寄与できればと考えています。ご利用者様・保護者様におかれましては『いつもと何か様子が、』『気のせいかもしれないけど、』等、小さなことでも構いませので連絡帳・お電話・ライン・送迎等で教えて頂けると、より一層の良い支援に繋がります。利用者様、保護者様、職員、皆さんと一緒に『つばさ』を作っていきましょう。



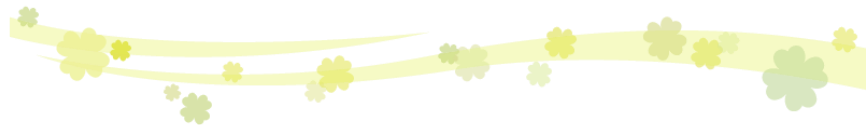
あゆみの家幼児部

桑原史子 2年目

思い起こせば、大学時代からずっと、私の日常はたくさんの子どもたちと共にありました。

子どもたちと育んだ数々の思い出、知識や経験の不足からくる失敗…様々なことが糧となり、今、私が心がけていることは、「お子さんたちの些細な変化も見逃さない」ということです。

子どもたちは日々、変化=進化=成長しています。その成長を身近で見守ることができる喜びを感じながら、これからも療育に携わっていきたいです。



こんにちは、ひだまり職員の星と申します。

20年前、友人がバイトをしていたスマイルをのぞかせてもらったのをきっかけに、お仕事をさせていただくようになりました。福祉の「ふ」の字もわからずに飛び込んだこの世界ですが、利用者さんの日常に触れ、自分に足りないものとは何か、どうあるべきか、を日々問われ続けていると感じています。仕事をするうえでは「自分が支援を受ける立場だったら」ということをよく考えます、利用者さんがその人らしく生活できるよう、安心安全に過ごせるよう、利用者さんやそのご家族の気持ちを大切に、ひだまりチームの一員という意識を持って支援をしていきたいと思っています。



ホームヘルプひだまり

星 美佐子 20年目

～編集後記～

みなさん、今年の夏はいかがだったでしょう？ 去年よりセミの声が少ないかな？なんて思っていました。ちょうど編集作業をしているときは台風や地震と自然災害の恐ろしさを身を感じていたところです。今号では各事業所の「防災訓練」の様子や法人いずみのBCP テーマでした。

災害時も含め、法人いずみは全職員一丸となってサービスを提供できるよう頑張っています。

担当：会田

発行元 : 社会福祉法人いずみ
東京都東村山市 3-3-4

TEL : 042-394-1868

※記事内の写真についてはご本人、ご家族のご了承を得たうえで掲載しております。